

Association of sleep-disordered breathing and alcohol consumption with hypertension among Japanese male bus drivers

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 崎山, 紀子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002241

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2019 号

The combined effects of sleep-disordered breathing and alcohol consumption on hypertension among Japanese male bus drivers

(バス運転者における睡眠呼吸障害と飲酒の組み合わせが高血圧に及ぼす影響)

崎山 紀子 (さきやま のりこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本研究は、日本人男性バス運転者を対象とし、睡眠呼吸障害 (Sleep-Disordered Breathing : SDB) およびアルコール摂取の重複が高血圧に及ぼす影響について報告した初めての論文である。

本研究は、20～65歳の男性バス運転者 2,525 人を対象とした横断研究である。SDB の指標は、気流モニター測定により得られた呼吸障害指数 (Respiratory Disturbance Index : RDI) を用いた。アルコール摂取量については、自記式質問紙調査により 1 週間の 1 日の平均アルコール摂取量を把握し、体重あたりのアルコール摂取量 (g/kg) に換算した。RDI およびアルコール摂取量と高血圧との関連は、多変量調整ロジスティック回帰モデルで分析した。

アルコール摂取量と高血圧の関連は、非飲酒者群とアルコール摂取量 1.0 g/kg 以上群の高血圧の多変数調整オッズ比 (95%信頼区間) は、1.89 (1.40～2.55) であった。SDB の重症度と高血圧の関連は、RDI<10 回/時群に対する RDI≥20 回/時群の高血圧の多変数調整オッズ比 (95%信頼区間) 1.29 (1.04～1.60) であった。アルコール摂取量及び SDB と高血圧の関連は、アルコール摂取量 <1.0 g/kg および RDI < 10 回/時群に対する、アルコール摂取量 ≥1.0 g/kg と RDI ≥ 10 回/時群の高血圧の多変量調整オッズ比 (95%信頼区間) は、1.89 (1.34-2.65) で有意に高かった。アルコール摂取量 <1.0 g/kg および RDI < 20 回/時群に対する、アルコール摂取量 ≥ 1.0 g/kg と RDI ≥ 20 回/時群の高血圧の多変量調整オッズ比 (95%信頼区間) は、2.20 (1.34-3.61) で有意に高かった。

本研究は、既報にない多数のバス運転者を対象とし、アルコール摂取及び SDB の重複が高血圧により強く影響を及ぼすことを明らかにし、男性バス運転者の過度なアルコール摂取者に対する積極的な保健指導と併せて SDB のスクリーニングを実施する必要性を示した意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。